(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号

特許第6962544号
(P6962544)

(45)発行日　令和3年11月5日(2021.11.5)　(24)登録日　令和3年10月18日(2021.10.18)

(51)Int.Cl.			F I	
E01F	9/608	(2016.01)	E01F	9/608
E01F	9/669	(2016.01)	E01F	9/669
E01F	9/677	(2016.01)	E01F	9/677
E01F	9/615	(2016.01)	E01F	9/615

請求項の数 6　(全 12 頁)

(21)出願番号　特願2017-126713(P2017-126713)
(22)出願日　平成29年6月28日(2017.6.28)
(65)公開番号　特開2019-7316(P2019-7316A)
(43)公開日　平成31年1月17日(2019.1.17)
審査請求日　令和2年6月24日(2020.6.24)

特許法第３０条第２項適用　平成２９年５月２５日に中日本高速道路株式会社岐阜保全サービスセンタービル２階会議室で配布した宣伝用資料

(73)特許権者　391013531
株式会社吾妻製作所
埼玉県戸田市喜沢南一丁目５番５号
(74)代理人　100111659
弁理士　金山　聡
(72)発明者　近藤　恵治
埼玉県戸田市喜沢南１丁目５番５号

審査官　石川　信也

最終頁に続く

(54)【発明の名称】視線誘導標

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
防護柵のワイヤーロープに取り付けられる視線誘導標であって、平坦な正面部と背面部を有するシート部材を備え、
前記正面部と前記背面部は、前記シート部材を折り曲げて形成され、
前記シート部材の折り曲げにより、前記ワイヤーロープを通す溝が形成され、
前記正面部の外側面と前記背面部の外側面には再帰性反射シートが貼り付けられていることを特徴とする視線誘導標。
【請求項２】
前記正面部の内側面にはブロック部材が貼り付けられていることを特徴とする請求項１記載の視線誘導標。
【請求項３】
前記シート部材は上面部を有し、前記正面部と前記上面部と前記背面部により左右側面部が開放された箱体が形成されていることを特徴とする請求項１又は請求項２記載の視線誘導標。
【請求項４】
前記背面部は、前記ブロック部材を覆うカバー部材を形成することを特徴とする請求項２又は請求項３記載の視線誘導標。
【請求項５】
前記再帰性反射シートには上下方向に延びる凸部が設けられていることを特徴とする請

求項１乃至請求項４のいずれかに記載した視線誘導標。
【請求項６】
防護柵のワイヤーロープに取り付けられる視線誘導標であって、プラスチックシートからなり正面部と背面部と上面部に区画されるシート部材を備え、
前記正面部の外側面と前記背面部の外側面には再帰性反射シートが貼り付けられ、
前記視線誘導標を前記ワイヤーロープに取り付けたときに、前記シート部材は、左右側面部と底面部が開放され前記防護柵に垂直な方向の幅が狭い箱体を形成し、前記上面部は、全長に渡って前記ワイヤーロープに接触するようになっていることを特徴とする視線誘導標。
【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、道路の中央分離帯等に設置される防護柵のワーヤーロープに取り付けられる視線誘導標に関するものである。
【背景技術】
【０００２】
高速道路の暫定２車線（片側１車線）区間においては、中央分離帯にラバーポールが設置されて、上下車線の区別が行われているが、近年、走行車が中央分離帯を越えて反対車線に飛び出す事故が増加している。このため、ラバーポールに代えて、金属ポールとこれに掛け渡されたワイヤーロープからなる防護柵を中央分離帯に設置し、反対車線への飛び出し事故を防ぐ試みがなされている。
この場合、中央分離帯に設置される防護柵のワーヤーロープ部分は、走行車が接触しないようにその視認性を向上させる必要がある。
ところで、従来より、防護柵のワイヤーロープ等に種々の視線誘導標等を取り付けて視認性を向上させ、視線誘導や注意喚起等を図ることが提案・開示されている。
例えば、特開２００９－２２１７４０号公報（特許文献１）には、表面に反射シートが貼着されたゴム製又は樹脂製の管状発泡体に、縦方向の切れ目が形成されていて、前記管状発泡体の切れ目を広げる形に弾性変形させることにより、棒状の部材に対して外嵌し得る構造であり、かつ、前記切れ目の付近で反射シート同士が対向している縁を結合する粘着手段、又は係合手段が設けられている反射シートを備えた標識が開示されている。
また、実開平６－２４０１０号公報（特許文献２）には、基体部と誘導標部でＴ字型の本体を形成すると共に基体部の背面側に取付溝を形成し、該取付溝にホルダーの嵌合部をスライド自在に取付けると共に、ホルダーにワイヤーロープへの取付部を形成し、誘導標部に反射シートを貼着した視線誘導標が開示されている。
さらに、特開２０１７－１４７４７号公報（特許文献３）には、外周又は側面部の一部に道路防護施設等に取り付けるための道路防護施設用挿入溝が設けられた本体を有している注意喚起用保安部品が開示されている。
【０００３】
しかしながら、特許文献１の標識においては、反射シートが貼着された管状発砲体は、上下方向に湾曲する円筒形であることから、上下方向に反射される光が多くなって左右方向に反射される光が減少し、左右方向に位置するドライバーに対する視認性を十分に向上させることができない。しかも、特許文献１の標識は、複数のガードケーブルに跨って取り付けることができず、視認性を高めるには、複数のガードケーブルに１本１本に管状発砲体を取り付ける必要があり、取り付け作業が面倒であるのみならず、管状発砲体に板状部を延設した標識を複数のガードケーブルに取り付けたとしても、標識が上下方向に連続しないばかりか、左右方向にずれやすい等、視認性を十分に向上させることができない。
また、特許文献２の視線誘導標においては、表面側に誘導表示部が設けられた基体部の背面側にワイヤーロープへの取付部が形成されていることから、特許文献２の視線誘導標を中央分離帯に設置される防護柵に取り付けても、一方の車線に面する基体部の背面側は視線誘導機能を果たさないばかりか、取付部が露出して防護柵の外観を損なうという問題

が生ずる。
さらに、特許文献３の注意喚起用保安部品は、ガードレールやガードパイプに取り付けるものであって、ワイヤーロープに取り付けるものではない。そして、ガードパイプに取り付ける特許文献３の注意喚起用保安部品においては、道路防護施設用挿入溝が設けられており、これを防護柵のワイヤーロープに取り付ける場合、この道路防護施設用挿入溝に開口部を設けても、注意喚起用保安部品のワイヤーロープに接する面積が小さく、ワイヤーロープに沿ってスライド移動しやすい。また、特許文献３の注意喚起用保安部品は、道路防護施設より上方に大きく突出し、道路防護施設と垂直方向の幅も広く、幅の狭い中央分離帯に設置される防護柵のワイヤーロープに取り付けると、ドライバーの視線を妨げる等の問題を引き起こす。
【先行技術文献】
【特許文献】
【０００４】
【特許文献１】２００９－２２１７４０号公報
【特許文献２】実開平６－２４０１０号公報
【特許文献３】特開２０１７－１４７４７号公報
【発明の概要】
【発明が解決しようとする課題】
【０００５】
本発明が解決しようとする課題は、道路の中央分離帯等の両側から見られる幅の狭い場所に設置された防護柵のワイヤーロープに取り付けられる視線誘導標において、左右方向に反射される光が減少しないようにし、取付部が外部に露出することなく複数のワイヤーロープに跨って取り付けることができ、ワイヤーロープに沿ってスライド移動しにくく、ドライバーの視線を妨げることなく、視認性を十分に向上させるようにすることである。
【課題を解決するための手段】
【０００６】
請求項１に記載の発明は、防護柵のワイヤーロープに取り付けられる視線誘導標であって、平坦な正面部と背面部を有するシート部材を備え、前記正面部と前記背面部は、前記シート部材を折り曲げて形成され、前記シート部材の折り曲げにより、前記ワイヤーロープを通す溝が形成され、前記正面部の外側面と前記背面部の外側面には再帰性反射シートが貼り付けられている視線誘導標を提供して、上記課題を解決するものである。
【０００７】
請求項２に記載の発明は、前記正面部の内側面にはブロック部材が貼り付けられている視線誘導標を提供して、上記課題を解決するものである。
【０００８】
請求項３に記載の発明は、前記シート部材は上面部を有し、前記正面部と前記上面部と前記背面部により左右側面部が開放された箱体が形成されている視線誘導標を提供して、上記課題を解決するものである。
【０００９】
請求項４に記載の発明は、前記背面部は、前記ブロック部材を覆うカバー部材を形成する視線誘導標を提供して、上記課題を解決するものである。
【００１０】
請求項５に記載の発明は、前記再帰性反射シートには上下方向に延びる凸部が設けられている視線誘導標を提供して、上記課題を解決するものである。
また、請求項６に記載の発明は、防護柵のワイヤーロープに取り付けられる視線誘導標であって、プラスチックシートからなり正面部と背面部と上面部に区画されるシート部材を備え、前記正面部の外側面と前記背面部の外側面には再帰性反射シートが貼り付けられ、前記視線誘導標を前記ワイヤーロープに取り付けたときに、前記シート部材は、左右側面部と底面部が開放され前記防護柵に垂直な方向の幅が狭い箱体を形成し、前記上面部は、全長に渡って前記ワイヤーロープに接触するようになっている視線誘導標を提供して、

上記課題を解決するものである。

【発明の効果】

【００１１】

請求項１及び請求項６に記載の発明の視線誘導標においては、道路の中央分離帯等の両側から見られる幅の狭い場所に設置された防護柵のワイヤーロープに、取付部が外部に露出することなく、ドライバーの視線を妨げることなく取り付けることができ、ワイヤーロープに沿ってスライド移動しにくく、左右方向に反射される光が減少しないようにして、視認性を十分に向上させ、さらに、再帰性反射シートにより視認性を高めるという効果を奏する。

【００１５】

請求項５に記載の発明の視線誘導標においては、さらに、斜め方向から鋭角に入った光を効率よく反射し、視認性を一層高めるという効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【００１６】

【図１】本発明の第１実施形態の視線誘導標の正面図である。

【図２】図１に示す視線誘導標の平面図である。

【図３】図１に示す視線誘導標の右側面図である。

【図４】図１のＹ１－Ｙ１断面図である。

【図５】図１のＸ１－Ｘ１断面図である。

【図６】図５のＡ部拡大図である。

【図７】図１に示す視線誘導標を広げた状態の斜視図である。

【図８】図１に示す視線誘導標１のブロック部材１１に代えて２個に分割したブロック部材を取り付けた視線誘導標を広げた状態の斜視図である。

【図９】視線誘導標１を防護柵のワイヤーロープに取り付けた状態の斜視図である。

【図１０】本発明の第２実施形態の視線誘導標の正面図である。

【図１１】図１０に示す視線誘導標の平面図である。

【図１２】図１０に示す視線誘導標の右側面図である。

【図１３】図１０のＹ２－Ｙ２断面図である。

【図１４】図１０のＸ２－Ｘ２断面図である。

【図１５】図１０に示す視線誘導標を広げた状態の斜視図である。

【図１６】視線誘導標２を防護柵のワイヤーロープに取り付けた状態の斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【００１７】

本発明の視線誘導標の実施形態について説明する。

［第１実施形態の視線誘導標］

図１は、本発明の第１実施形態の視線誘導標の正面図、図２は、図１に示す視線誘導標の平面図、図３は、図１に示す視線誘導標の右側面図、図４は、図１のＹ１－Ｙ１断面図、図５は、図１のＸ１－Ｘ１断面図、図６は、図５のＡ部拡大図、図７は、図１に示す視線誘導標を広げた状態の斜視図である。

図において、１は視線誘導標、１０はシート部材、１０ａは正面部、１０ｂは背面部、１０ｃは上面部、１１はブロック部材、１２は溝、１３、１４は再帰性反射シート、１３ａ、１４ａは凸部、１５は両面テープ、ｆ１、ｆ２は折曲線である。

【００１８】

［視線誘導標１の構成］

図１～７に示すように第１実施形態の視線誘導標１は、シート部材１０、ブロック部材１１、再帰性反射シート１３、１４から構成されている。

図１、図３、図７等に示すように、シート部材１０は、正面部１０ａと背面部１０ｂと上面部１０ｃに区画され、正面部１０ａが折曲線ｆ１から折り曲げられ、背面部１０ｂが折曲線ｆ２から折り曲げられて断面コの字状となり、左右側面部と底面部が開放された箱体を形成している。そして、正面部１０ａの内側面にブロック部材１１が接着剤等により

貼り付けられ、正面部１０ａのブロック部材１１が貼り付けられていない部分と上面部１０ｃとブロック部材１１で断面がコの字状の溝１２を形成し、背面部１０ｂがブロック部材１１と溝１２の開口側を覆っている。

この場合、シート部材１０の正面部１０ａ、上面部１０ｃとブロック部材１１が本発明の板状部材を形成し、シート部材１０の背面部１０ｂが本発明のカバー部材を形成し、溝１２は、ワイヤーロープを通す溝となり、この板状部材とカバー部材は、上下方向に湾曲しない形状となっている。

シート部材１０には、数ｍｍ程度の厚みのプラスチックシートが使用されるが、軽くて緩衝性のある発泡ポリエチレン、発泡ポリプロピレン等の発泡プラスチックを用いるのが好ましく、特に強度と緩衝性に優れている発泡ポリプロピレンを用いるのが好ましい。

ブロック部材１１は、溝１２に通すワイヤーロープの太さに対応した厚み、例えば、１５ｍｍ～３０ｍｍの厚みを有し、軽くて緩衝性のある発泡ポリスチレン、発泡ポリエチレン、発泡ポリプロピレン等の発泡プラスチックが用いられ、強度と緩衝性に優れている発泡ポリプロピレンを用いるのが好ましい。

また、シート部材１０の正面部１０ａの外側面には、再帰性反射シート１３が両面テープ等（図示せず）により貼り付けられ、シート部材１０の背面部１０ｂの外側面には、再帰性反射シート１４が両面テープ等（図示せず）により貼り付けられている。

再帰性反射シート１３、１４は、入射した光を光源方向（入射方向）に反射する反射シートで、これには、ガラスビーズを用いた露出レンズ型、封入レンズ型、カプセルレンズ型や、ガラスビーズを使用しないプリズム型等の反射シートが使用されるが、高輝度反射機能を有するプリズム型の反射シートを使用するのが望ましい。

そして、再帰性反射シート１３には、上下方向に延びる三角柱形状の凸部１３ａは多数設けられ、再帰性反射シート１４にも、同形状の凸部１４ａが多数設けられている。

さらに、シート部材１０の上面部１０ｃの内側面には、両面テープ１５は取り付けられているが、この両面テープ１５は、視線誘導標１がワーヤーロープに沿ってスライド移動するのを確実に防止するためのものであり、上面部１０ｃに両面テープ１５を取り付けなくてもよく、また、両面テープ１５に代えて、ワーヤーロープを挟み込むリング状のバンド等のスライド移動防止部材を取り付けてもよい。

なお、本発明の再帰性反射シートは、上記のような凸部が設けられたものに限定されるわけではなく、凸部のないフラットな面の再帰性反射シートであってもよい。

【００１９】

図８は、図１に示す視線誘導標１のブロック部材１１に代えて２個に分割したブロック部材を取り付けた視線誘導標を広げた状態の斜視図であり、図において、１’は視線誘導標、１６ａ、１６ｂはブロック部材である。

図８に示すように、視線誘導標１’においては、シート部材１０の正面部１０ａの内側面に、ブロック部材１１に代えて２個に分割したブロック部材１６ａ、１６ｂが接着剤等により貼り付けられており、視線誘導標１と同様に、正面部１０ａと背面部１０ｂが折曲線ｆ１、ｆ２から折り曲げられる。

そして、視線誘導標１’においては、正面部１０ａのブロック部材１６ａ、１６ｂが貼り付けられていない部分と上面部１０ｃとブロック部材１６ａ、１６ｂで、視線誘導標１と同じ溝１２を形成し、背面部１０ｂがブロック部材１６ａ、１６ｂと溝１２の開口側を覆っている。

このように本発明のブロック部材は、図１に示すような１つのブロック部材１１に限定されるものではなく、図８に示した２個に分割したブロック部材１６ａ、１６ｂであってもよく、さらに、３個以上に分割したブロック部材であってもよく、四角形状や格子状の枠体であってもよい。

【００２０】

［視線誘導標１の使用方法］

次に、視線誘導標１の使用方法ついて説明する。

視線誘導標１は、高速道路の中央分離帯等に設置される防護柵であって、ポール（金属

ポール）とこれに掛け渡されたワイヤーロープ等からなる防護柵のワイヤーロープに取り付けられて使用される。

図９は、視線誘導標１を防護柵のワイヤーロープに取り付けた状態の斜視図であって、図において、３０は防護柵、３１～３５はワイヤーロープである。

図９に示すように、防護柵３０は、ポール（図示ぜず）とこれに掛け渡されたワイヤーロープ３１～３５等から構成される。

視線誘導標１をワイヤーロープに取り付けるに際しては、図１～３に示すような視線誘導標１のカバー部となる背面部１０ｂを折曲線ｆ２から上側に折り返して、溝１２を開いてこれにワーヤーロープ３１を通し、背面部１０ｂを元に戻して溝１２の開口部とブロック部材１１を覆うようにし、図９に示すような状態で視線誘導標１がワーヤーロープ３１に取り付けられる。

図９では、最上段のワーヤーロープ３１に視線誘導標１を取り付けているが、他のワーヤーロープ３２～３５のいずれかに視線誘導標１を取り付けてもよい。

なお、背面部１０ｂでブロック部材１１を覆う際、背面部１０ｂの内側面をブロック部材１１に両面テープ等で貼り付ける等して、背面部１０ｂをブロック部材１１に固定してもよい。

【００２１】

上記のようにして防護柵のワイヤーロープに取り付けられる視線誘導標１は、以下の（１）～（７）の効果を奏する。

（１）視線誘導標１は、シート部材１０の正面部１０ａ、上面部１０ｃとブロック部材１１からなる板状部材と背面部１０ｂからなるカバー部材により構成され、断面がコの字状となって上下方向に湾曲しないため、左右方向に反射される光を減少させず、視認性を向上させることができる。

（２）視線誘導標１は、防護柵３０に垂直な方向の面となる正面部１０ａと背面部１０ｂの両方を反射面とすることができ、道路路の中央分離帯等の両側から見られる場所に設置することができる。

（３）視線誘導標１においては、シート部材１０の正面部１０ａ、背面部１０ｂに再帰性反射シート１３、１４が貼り付けられ、視認性がより向上されている。

（４）再帰性反射シート１３、１４に凸部１３ａ、１４ａが設けられ、ドライバーに対して、斜め方向から鋭角に入ったヘッドライトの光を効率よく反射し、視線誘導標１の視認性が一層高められている。

（５）視線誘導標１は、防護柵３０に垂直な方向の幅が狭い箱体となるため、道路路の中央分離帯等の両側から見られる幅の狭い場所に設置された防護柵のワイヤーロープに取り付けても、上方等に突出してドライバーの視線を妨げることはなく、ワイヤーロープへの取付部となる溝１２が外部に露出することもない。

（６）溝１２にワイヤーロープ３１を通して視線誘導標１を防護柵３０に取り付けることにより、シート部材１０の上面部１０ｃが全長に渡ってワイヤーロープ３１に接触し、視線誘導標１はワーヤーロープに沿ってスライド移動しにくくなっている。

（７）両面テープ１５を上面部１０ｃの内側面に取り付けることにより、両面テープ１５が溝１２に通したワーヤーロープ３１に貼り付き、視線誘導標１がワーヤーロープ３１に沿ってスライド移動するのを確実に防止することができる。

【００２２】

［第２実施形態の視線誘導標］

図１０は、本発明の第２実施形態の視線誘導標の正面図、図１１は、図１０に示す視線誘導標の平面図、図１２は、図１０に示す視線誘導標の右側面図、図１３は、図１０のＹ２－Ｙ２断面図、図１４は、図１０のＸ２－Ｘ２断面図、図１５は、図１０に示す視線誘導標を広げた状態の斜視図である。

図において、２は視線誘導標、２０はシート部材、２０ａは正面部、２０ｂは背面部、２０ｃは上面部、２１ａ、２１ｂはブロック部材、２２ａ、２２ｂは溝、２３、２４は再帰性反射シート、２３ａ、２４ａは凸部、２５は両面テープ、ｆ３、ｆ４は折曲線である

。

【００２３】

［視線誘導標２の構成］

図１０～１５に示すように第２実施形態の視線誘導標２は、シート部材２０、ブロック部材２１ａ、２１ｂ、再帰性反射シート２３、２４から構成されている。

図１、図１２、図１５等に示すように、シート部材２０は、正面部２０ａと背面部２０ｂと上面部２０ｃに区画され、正面部２０ａが折曲線ｆ３から折り曲げられ、背面部２０ｂが折曲線ｆ４から折り曲げられて断面コの字状となり、左右側面部と底面部が開放された箱体を形成している。正面部２０ａの内側面にはブロック部材２１ａ、２１ｂが間隔を空けて接着剤等により貼り付けられている。

そして、正面部１０ａのブロック部材２１ａが貼り付けられていない上側の部分と、上面部２０ｃと、ブロック部材２１ａにより、断面がコの字状の溝２２ａを形成し、また、正面部１０ａのブロック部材２１ａとブロック部材２１ｂの間の部分と、ブロック部材２１ａの下面と、ブロック部材２１ｂの上面により、断面がコの字状の溝２２ｂを形成し、背面部２０ｂがブロック部材２１ａ、２１ｂと溝２２ａ、２２ｂの開口側を覆っている。

この場合、シート部材２０の正面部２０ａ、上面部２０ｃとブロック部材２１ａ、２１ｂが本発明の板状部材を形成し、シート部材２０の背面部２０ｂが本発明のカバー部材を形成し、溝２２ａ、２２ｂは、ワイヤーロープを通す溝となり、この板状部材とカバー部材は、上下方向に湾曲しない形状となっている。

このように視線誘導標２は、２個のブロック部材２１ａ、２１ｂが用いられて２個の溝２２ａ、２２ｂが形成され、２本のワイヤーロープに跨って取り付けられるようになっている点で、１個のブロック部材１１が用いられて１個の溝１２が形成され、１本のワイヤーロープに取り付けられる視線誘導標１と異なっている。

この場合、シート部材２０の正面部２０ａに貼り付けるブロック部材は、２個のブロック部材２１ａ、２１ｂに限定されるものではなく、３個以上のブロック部材を正面部２０ａに貼り付けて３個以上の溝を形成し、３本以上のワイヤーロープに跨って取り付けられるようにしてもよい。

シート部材２０には、シート状部材１０と同様に、数ｍｍ程度の厚みのプラスチックシートが使用されるが、軽くて緩衝性のある発泡ポリエチレン、発泡ポリプロピレン等の発泡プラスチックを用いるのが好ましく、特に強度と緩衝性に優れている発泡ポリプロピレンを用いるのが好ましい。

ブロック部材２１ａ、２１ｂは、ブロック部材１１と同様に、溝２２ａ、２２ｂに通すワイヤーロープの太さに対応した厚み、例えば、１５ｍｍ～３０ｍｍの厚みを有し、軽くて緩衝性のある発泡ポリスチレン、発泡ポリエチレン、発泡ポリプロピレン等の発泡プラスチックが用いられ、強度と緩衝性に優れている発泡ポリプロピレンを用いるのが好ましい。

また、視線誘導標１と同様に、シート部材２０の正面部２０ａの外側面には、再帰性反射シート２３が両面テープ等（図示せず）により貼り付けられ、シート部材２０の背面部２０ｂの外側面には、再帰性反射シート２４が両面テープ等（図示せず）により貼り付けられている。

再帰性反射シート２３、２４は、再帰性反射シート１３、１４と同様の機能を有し、再帰性反射シート１３、１４の凸部１３ａ、１４ａと同じ凸部２３ａ、２４ａが設けられているが、凸部２３ａ、２４ａのないフラットな再規性反射シートであってもよい。

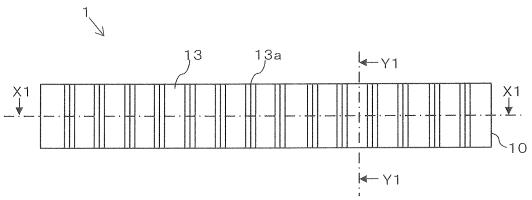
さらに、シート部材２０の上面部２０ｃの内側面には、視線誘導標１と同様に両面テープ２５が取り付けられているが、両面テープ２５を取り付けなくてもよく、また、両面テープ２５に代えて、視線誘導標１の場合と同様のスライド移動防止部材を取り付けてもよい。

なお、ブロック部材２１ａは、図８に示すような２個に分割されたブロック部材、あるいは３個以上に分割されたブロック部材でもよく、ブロック部材２１ｂも同様に２個以上に分割されたブロック部材でもよく、四角形状や格子状の枠体であってもよい。

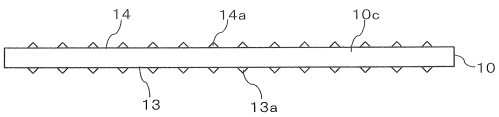
【００２４】
［視線誘導標２の使用方法］
次に、視線誘導標２の使用方法ついて説明する。
視線誘導標２は、視線誘導標１と同様に、ポールとこれに掛け渡されたワイヤーロープ等からなる防護柵のワイヤーロープに取り付けられて使用される。
図１６は、視線誘導標２を防護柵のワイヤーロープに取り付けた状態の斜視図である。
視線誘導標２をワイヤーロープに取り付けるに際しては、図１０～１２に示すような視線誘導標２のカバー部となる背面部２０ｂを折曲線ｆ４から上側に折り返して、溝２２ａ、２２ｂを開いてこれにワーヤーロープ３１、３２を通し、背面部２０ｂを元に戻して溝２２ａ、２２ｂの開口部とブロック部材２１ａ、２１ｂを覆うようにし、図１６に示すような状態で視線誘導標２がワーヤーロープ３１、３２に取り付けられる。
図１６では、上側２段のワーヤーロープ３１、３２に視線誘導標２を取り付けているが、他のワーヤーロープ３２、３３、ワーヤーロープ３３、３４、ワーヤーロープ３４、３５のいずれかに視線誘導標２を取り付けてもよい。
なお、視線誘導標１と同様に、背面部２０ｂでブロック部材２１ａ、２１ｂを覆う際、背面部２０ｂの内側面を下側のブロック部材２１ｂ等に両面テープ等で貼り付ける等して、背面部２０ｂをブロック部材２１ｂ等に固定してもよい。
【００２５】
上記のようにして防護柵のワイヤーロープに取り付けられる視線誘導標２は、前述のような視線誘導標１が奏する（１）～（７）の効果に加えて、以下の（８）の効果を奏する。
（８）視線誘導標２は、複数のワイヤーロープに跨って取り付けることができ、一層視認しを高めることができる。
【産業上の利用可能性】
【００２６】
本発明の視線誘導標は、防護柵のワイヤーロープに取り付けられるものであり、左右方向に反射される光が減少しないようにし、取付部が外部に露出することなく複数のワイヤーロープに跨って取り付けることができ、ワイヤーロープに沿ってスライド移動しにくく、ドライバーの視線を妨げることなく、視認性を十分に向上させることができ、道路の中央分離帯等に設置される防護柵のワイヤーロープに取り付けて利用できる。
【符号の説明】
【００２７】
１、２　視線誘導標
１０　シート部材
１０ａ　正面部
１０ｂ　背面部
１０ｃ　上面部
１１　ブロック部材
１２　溝
１３、１４　再帰性反射シート
１３ａ、１４ａ　凸部
１５　両面テープ
１６ａ、１６ｂ　ブロック部材
２０　シート部材
２０ａ　正面部
２０ｂ　背面部
２０ｃ　上面部
２１ａ、２１ｂ　ブロック部材
２２ａ、２２ｂ　溝
２３、２４　再帰性反射シート

２３ａ、２４ａ　凸部
２５　両面テープ
３０　防護柵
３１～３５　ワイヤーロープ
ｆ１、ｆ２、ｆ３、ｆ４　折曲線

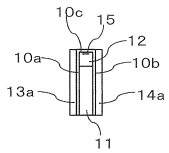
【図１】



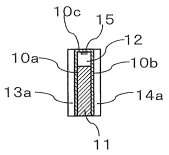
【図２】



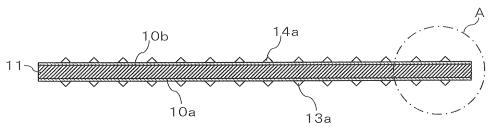
【図３】



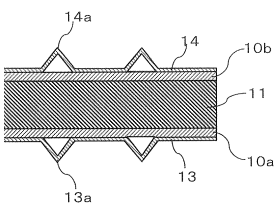
【図４】



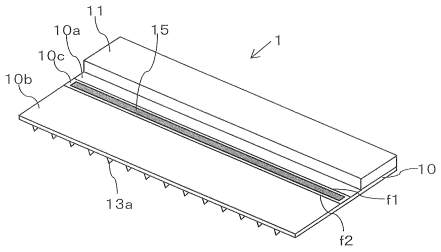
【図５】



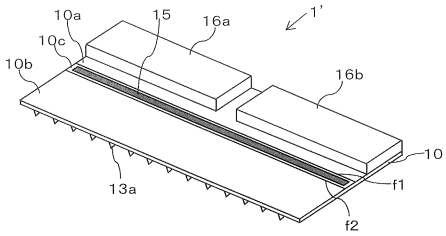
【図６】



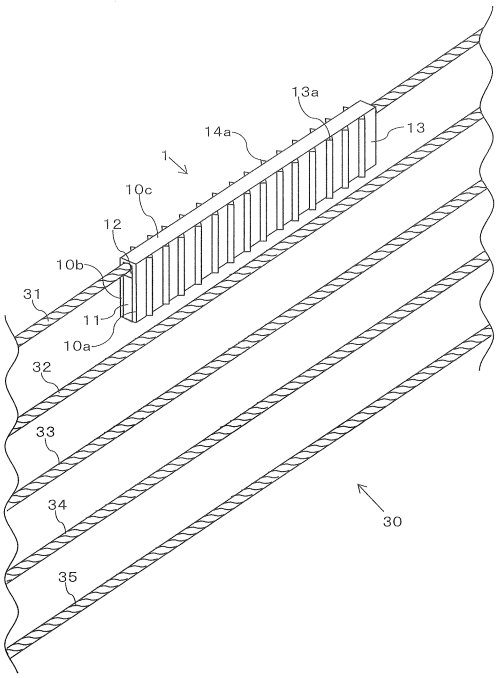
【図７】



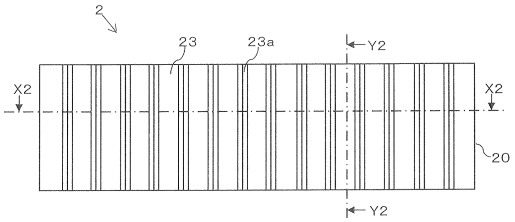
【図８】



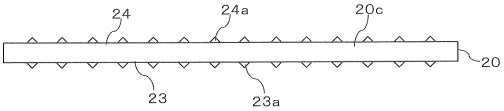
【図９】



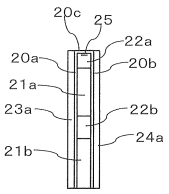
【図１０】



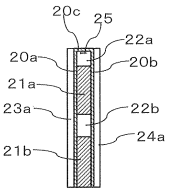
【図１１】



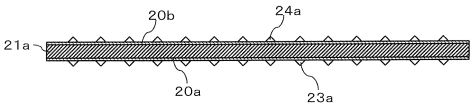
【図１２】



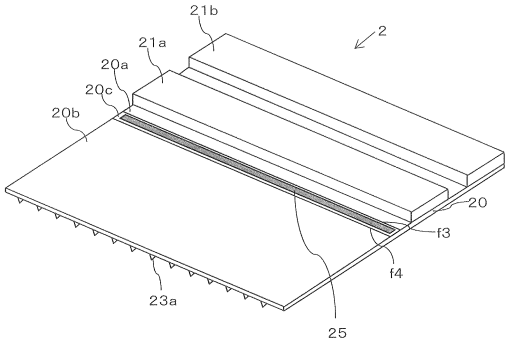
【図１３】



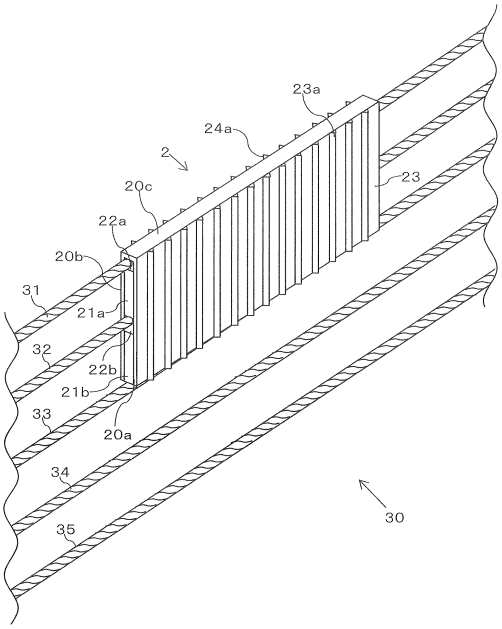
【図１４】



【図１５】



【図１６】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開平０８－３０２６２６（ＪＰ，Ａ）
特開２００７－２７０４６７（ＪＰ，Ａ）
特開２００９－２２１７４０（ＪＰ，Ａ）
実開平０６－０２４０１０（ＪＰ，Ｕ）
特開２０１７－０１４７４７（ＪＰ，Ａ）

(58)調査した分野(Int.Cl.，ＤＢ名)
Ｅ０１Ｆ　９／６０８
Ｅ０１Ｆ　９／６６９
Ｅ０１Ｆ　９／６７７
Ｅ０１Ｆ　９／６１５